

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	SSMP2303 SCMP2303 SBMP2303 SJMP3101
2. 授業担当教員	田中良幸			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーションなどを取り入れた形態を重視する。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、児童・家庭福祉論で学んだ、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動などを復習した上で、児童・家庭福祉論Ⅱでは、子ども家庭にかかわる福祉・保健政策について、とりわけ子どもの貧困など、グループでテーマを設定した上で、学習を進め、成果を発表する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。授業の進め方は、授業開始時に分けたグループでの研究が基本となる。また、学生が授業運営に参画する度合いを増やす。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性、児童家庭福祉の制度の全体像を理解し、説明ができる。 ・グループでの研究を通じて、文献の読み方、資料の集め方、調査の方法を理解し、活用できるようにする。 ・グループでの研究を通じて、研究の目的、方法、結論、考察をいった手順を活用できるようにする。 ・グループでの発表を通じてプレゼンテーションの方法を身につける。 ・その他、文章の要約方法、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。 			
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1 グループごとに研究テーマを設定して、テーマに基づき調査等を行い、授業毎にグループでの討議内容をまとめて提出する。最終講義日に各グループでは発表する。</p> <p>2 レポート課題はA4 2枚程度に、グループで研究した中身に加えて、自己の分析見解をまとめておく。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>特に指定しない。</p> <p>参考書 社会福祉士講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉論』第6班 中央法規出版 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房 東京福祉大学『保育児童福祉要説』中央法規出版</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性、児童家庭福祉の制度の全体像を理解し、説明ができる。 2. グループでの研究を通じて、研究のスタイルを理解し、活用することができる。 3. 発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につけ、活用することができる。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加 (調査・ディスカッション・発表) 総合点の40% 2. 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査・提出物) 総合点の30% 3. 課題レポート 総合点の30% 			
12. 受講生へのメッセージ	前半は講義グループ討議中心の形態から、後半では、グループを単位とした調査・研究・発表といった学生の自主性を活かした授業方式になります。各自の積極的な参加姿勢が大切です。さらに、グループ全員での取り組みが求められるので、健康に留意して欠席、遅刻はないように自己の生活管理が求められる。社会状況によりズーム授業となります。また、グループ活動についても授業中はズームでのグループとなることがあります。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 授業の概要と進め方の説明 後半のグループ分けの説明	事前学習	シラバスに目を通しておく	
		事後学習	オリエンテーションで説明された内容を確認する。	
第2回	子どもの権利条約を確認し、グローバル視点から見た日本の子どもの状況、子育て事情について確認する	事前学習	教科書第1章「子ども家庭社会とは何か」	
		事後学習	子どもの権利と権利条約の意味をまとめる。	
第3回	日本の現状。少子高齢化社会における次世代育成について検討する	事前学習	教科書第2章「現代社会と子ども・家庭」	
		事後学習	子供の成長に必要な要素を確認する。	
第4回	子育て、子育てにおける日本の家族の現状と社会的課題	事前学習	教科書第3章「子ども家庭福祉に関わる法制度」	
		事後学習	戦後日本での法的な変遷を確認する。	
第5回	子どもの居場所、虐めの実情と大人の責任と権利擁護	事前学習	教科書第4章「子ども家庭に関わる福祉・保健」	
		事後学習	自分のこれまでの学校生活からいじめの原因と対策を考えてみる。	
第6回	子どもの虐待の形態と対応策 1	事前学習	教科書第5章「子ども家庭福祉援助活動」	
		事後学習	虐待の種類と対策の流れを確認する。	

第7回	子どもの虐待と対応策2 グループ分け 後半のグループ授業に備えて、幾つか提示されたテーマから自分の希望するグループを選定する。 グループテーマを配布する。	事前学習	自分の育ちから子どもの虐待の支援策を客観的に検討してみる
		事後学習	虐待を防止する方法、早期に対応するための方法を確認する。 グループテーマから自分で第一希望、第二希望を選定しておく。
第8回	グループ活動：グループメンバー確定とテーマ選定 グループ活動のルール確認 状況によりズーム授業 テーマについての資料を当日配布する。	事前学習	事前に配布した資料で自分の希望する内容を検討しておく。
		事後学習	グループテーマ出の詳細を他のメンバーに説明できるようにしておく。
第9回	グループ活動：グループでのテーマ選定と目標確認 状況によりズーム授業 プレゼンテーション練習： 1分スピーチ 自己紹介と自分のテーマの理由を相手に説明する。	事前学習	グループ活動を円滑に進めるための自己紹介スピーチを考えておく。
		事後学習	グループでの目的達成に必要な工程を各自で考えてくる。
第10回	グループ活動：グループでのテーマ選定と目標確認 状況によりズーム授業	事前学習	授業前にテーマに関連する資料を送付するので、各自で資料をきちんと読んでおく。
		事後学習	3分スピーチの成果を自分で確認して、次のスピーチ機会を活かせる部分を確認する。
第11回	グループ活動：グループでのテーマ決定と目標確認 状況によりズーム授業 プレゼンテーション練習： 3分スピーチ テーマに関する法的な背景を社会状況から理解する。	事前学習	授業前にテーマに関連する資料を送付するので、各自で資料をきちんと読んでおく。
		事後学習	3分スピーチの成果を自分で確認して、次のスピーチ機会を活かせる部分を確認する。
第12回	グループ活動：グループで集めた資料検討と討議 状況によりズーム授業 プレゼンテーション練習：パワーポイントの作り方	事前学習	授業前にテーマに関連する資料を送付するので、各自で資料をきちんと読んでおく。
		事後学習	授業前にテーマに関連する資料を送付するので、各自で資料をきちんと読んでおく。
第13回	グループ活動：発表1 グループごとの発表を聞き、質疑応答を行い、その内容を各グループで評価表に基づいて評価する。 状況によりズーム授業	事前学習	当日発表するグループテーマを確認して、自分の中で質疑する項目をまとめておく。
		事後学習	各グループの良い点を各自で確認して評価表に記載する。
第14回	グループ活動：発表2 グループごとの発表を聞き、質疑応答を行い、その内容を各グループで評価表に基づいて評価する。 状況によりズーム授業	事前学習	当日発表するグループテーマを確認して、自分の中で質疑する項目をまとめておく。
		事後学習	各グループの良い点を各自で確認して評価表に記載する。
第15回	授業のまとめ：学生による最優秀、優秀グループの選定と表彰 授業で学んだことを今後の自分の生活の中でどう活かすかを各自3分スピーチで報告 状況によりズーム授業	事前学習	授業で何を学べたかを各自まとめておく。
		事後学習	グループ発表で得たことを確認しておく。